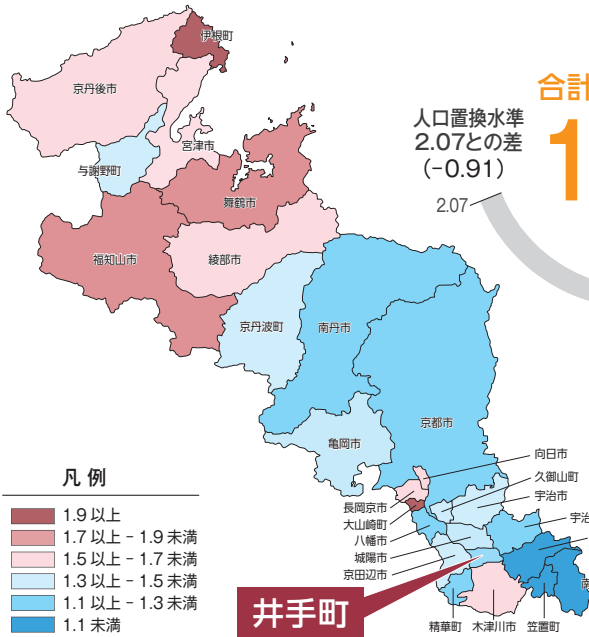


井手町

● 出生率の概要

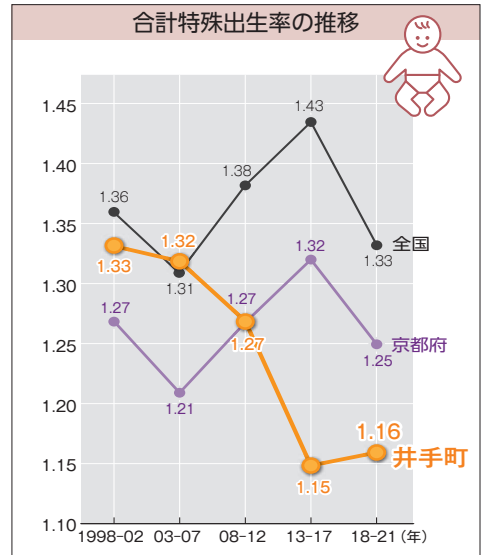
合計特殊出生率
(2018-2021年)



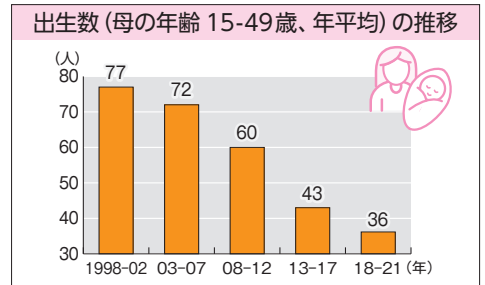
合計特殊出生率
1.16

人口置換水準
2.07との差
(-0.91)

合計特殊出生率の推移



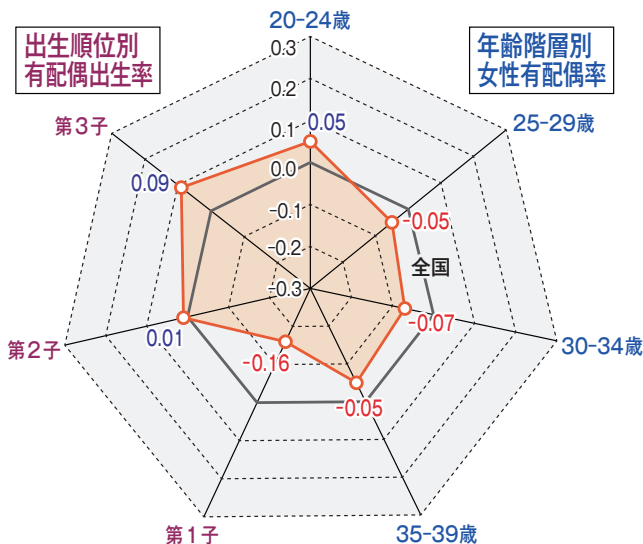
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 2018-21年の井手町の合計特殊出生率は1.16と算出され、全国値を0.17ポイント下回ります。人口置換水準との差は-0.91ポイントに上ります。
- 2008-12年までは、全国や府全体と同程度で推移していましたが、2013-17年以降の低下が大きくなっています。

● 実態の見える化

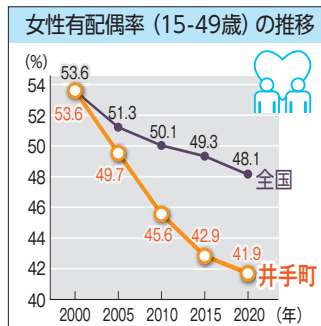
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



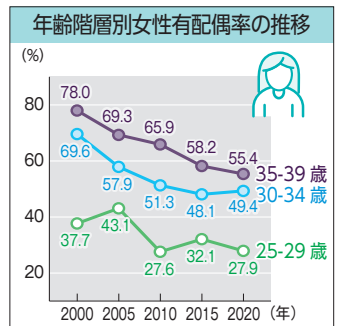
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代後半から30歳代の女性有配偶率が全国を下回ります。全国よりも非婚化が進んでいる可能性があります。有配偶出生率は第1子が大きく全国値を下回ります。
- 推移をみても、女性有配偶率の低下が大きくなっています。また、有配偶出生率も低下しています。結婚が減少し、第1子の出生減が出生率に影響していると考えられます。

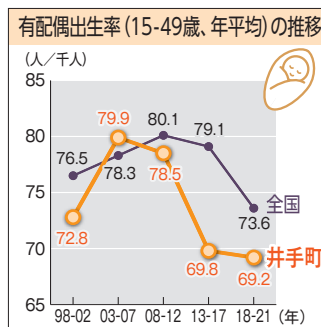
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

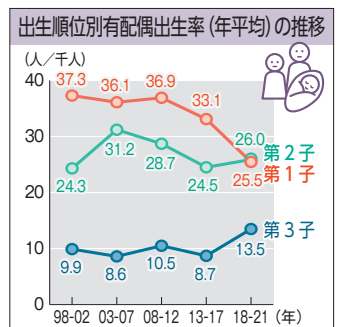


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

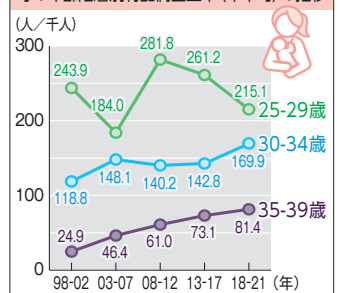


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

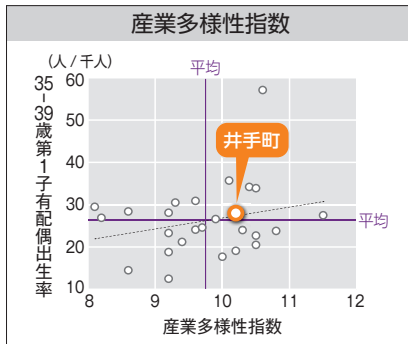
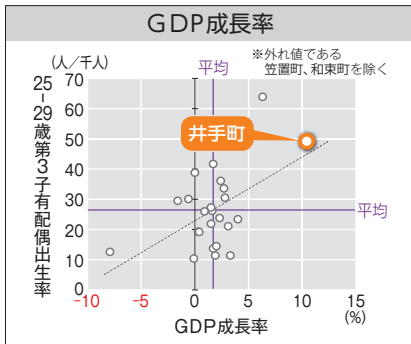
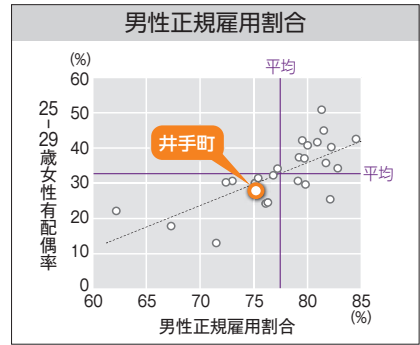
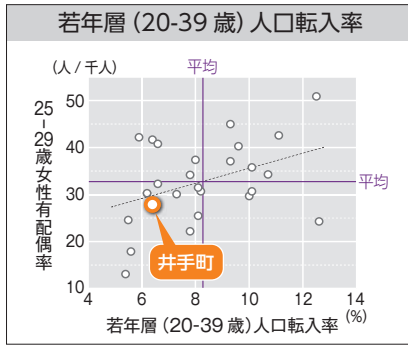
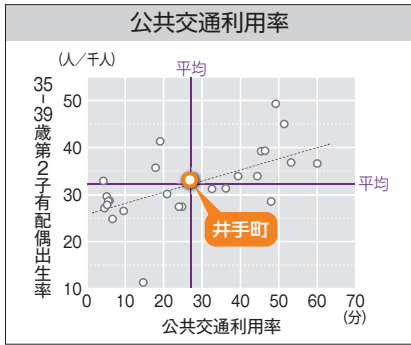
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



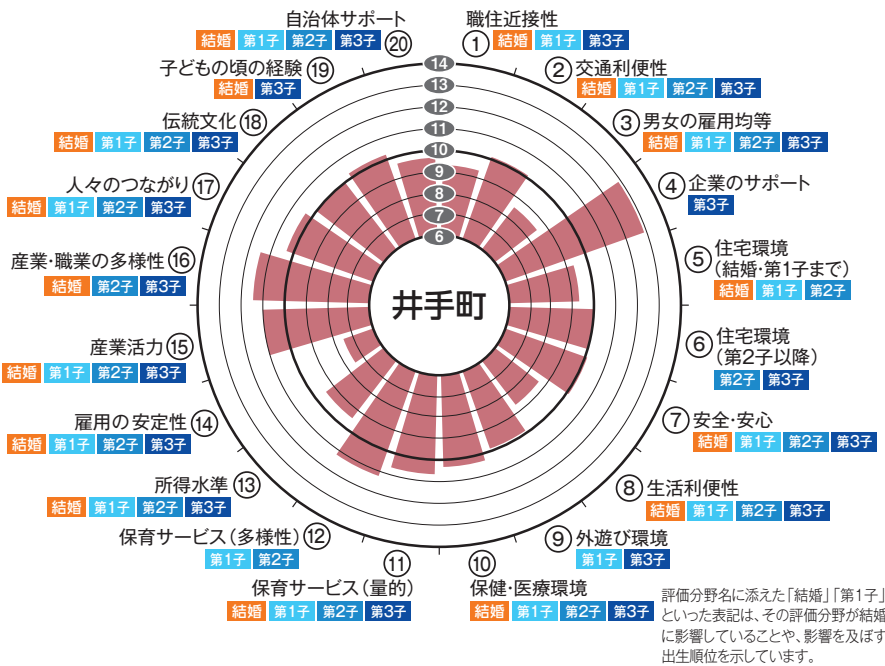
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、GDP成長率(産業活力)、産業多様性指数(産業・職業の多様性)が平均を上回り、公共交通利用率(交通利便性)が平均的ですが、一方で、若年層(20-39歳)人口転入率(住宅環境(結婚・第1子まで))、男性正規雇用割合(雇用の安定性)が平均を下回っています。

(注) 括弧の中は評価分野

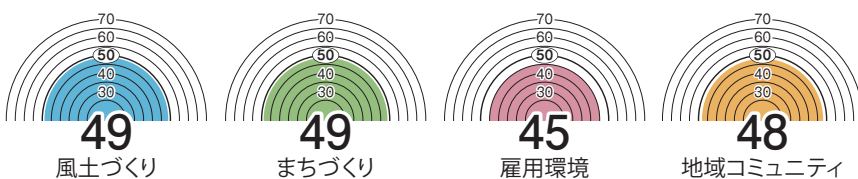
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

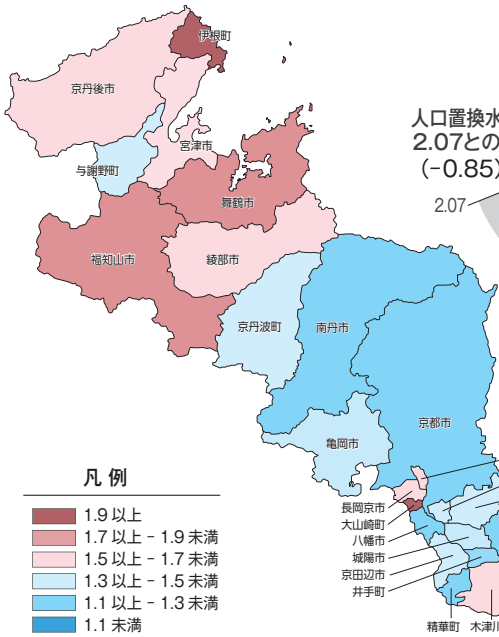
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- 人口規模の影響を受けて極端なスコアになっていると考えられる④企業のサポートのほか、⑫保育サービス(多様性)、⑮産業活力、⑯産業・職業の多様性が平均を大きく上回り、②交通利便性、⑥住宅環境(第2子以降)、⑦安全・安心、⑩保健・医療環境、⑪保育サービス(量的)、⑰人々のつながり、⑲子どもの頃の経験等、平均的な評価分野が多くみられます。
- その中で、出生率への影響力が大きい⑬所得水準、⑭雇用の安定性といった産業関連のスコアが低いことが出生率にマイナスに影響しているとみられます。また、②交通利便性が平均値にとどまる一方で、①職住近接性のスコアが低いことも出生率低下の一因になっている可能性があります。

宇治田原町

● 出生率の概要

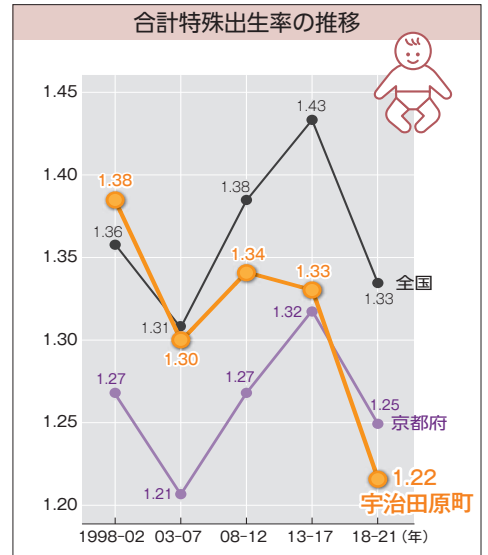
合計特殊出生率
(2018-2021年)



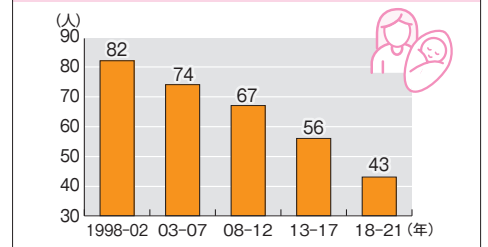
合計特殊出生率
1.22

人口置換水準
2.07との差
(-0.85)

合計特殊出生率の推移



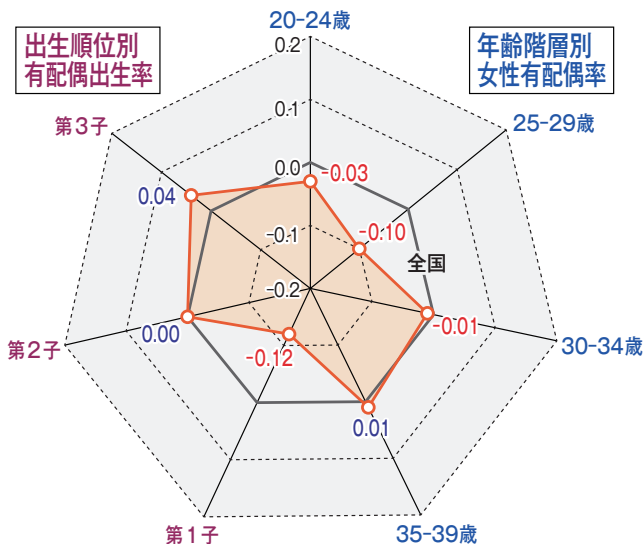
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 2018-21年の宇治田原町の合計特殊出生率は1.22と算出され、全国値を0.11ポイント下回ります。人口置換水準との差は-0.85ポイントに及びます。
- 2008-12年から2013-17年にかけて全国、府全体の出生率が上昇する中で宇治田原町は低下となり、2018-21年は低下が拡大しています。

● 実態の見える化

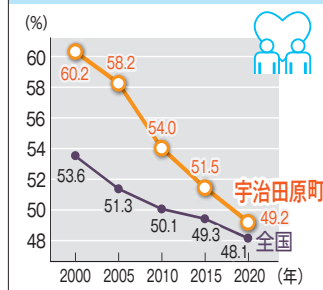
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



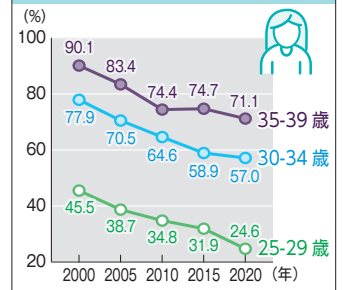
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代の女性有配偶率が全国値を下回り、30歳代は全国と同程度です。第3子有配偶出生率は高いものの、第1子が全国を大きく下回ります。第1子有配偶出生率の低さなど、隣接する井手町と共通点がみられます。
- 女性有配偶率の低下は大きいものの、2013-17年までは有配偶出生率はほぼ横ばいとなっています。

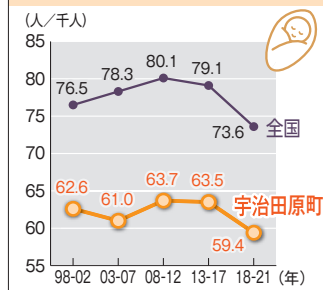
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

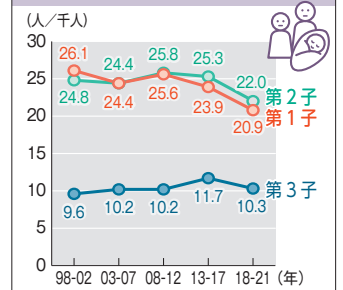


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

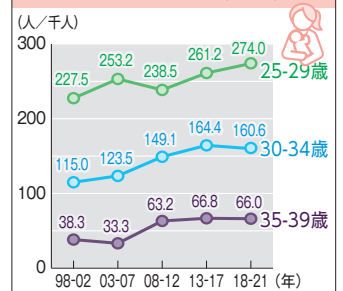


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

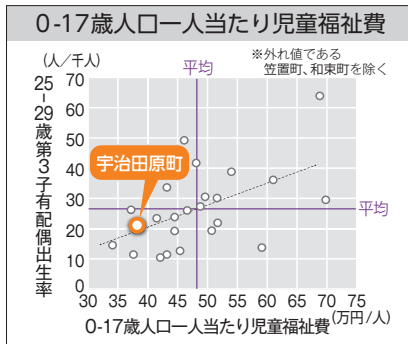
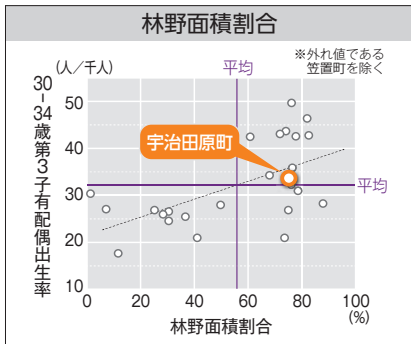
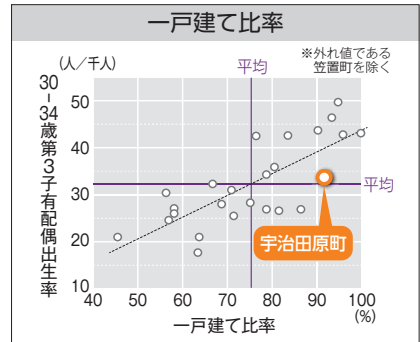
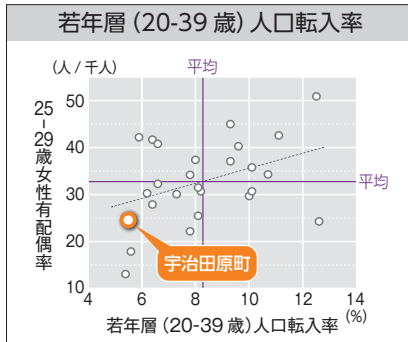
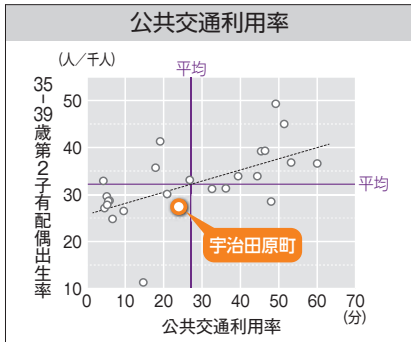
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、若年層 (20-39歳) 人口転入率 (住宅環境 (結婚・第1子まで))、0-17歳人口一人当たり児童福祉費 (自治体サポート) 等は平均を下回っています。一方、一戸建て比率 (住宅環境 (第2子以降))、林野面積割合 (外遊び環境) が高い値になっている様子が見えます。

(注) 括弧の中は評価分野

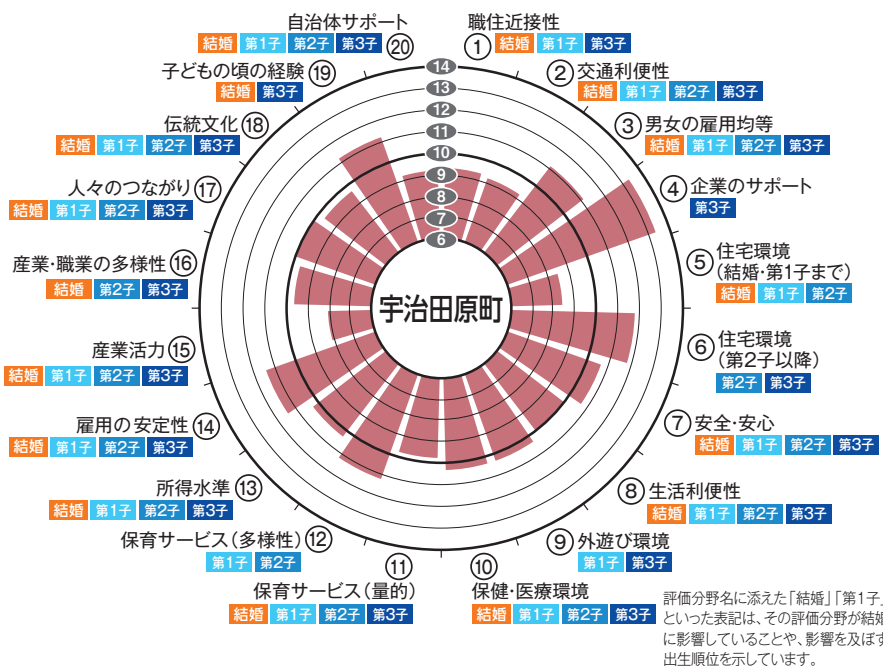
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

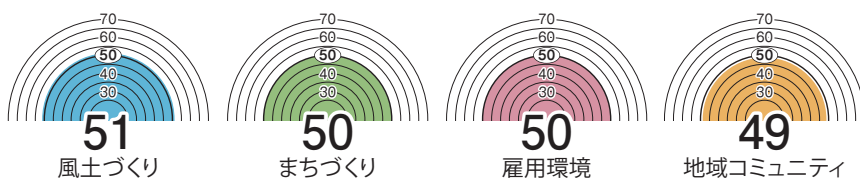
結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)

京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスが必要な人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

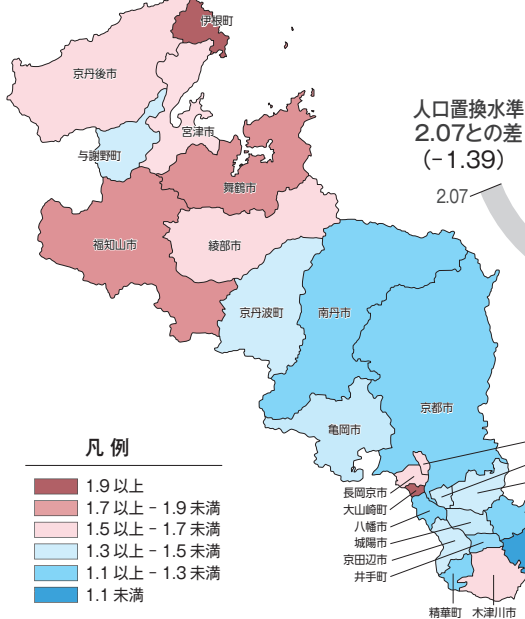


子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



- 出生率への影響力が大きい⑬所得水準、⑭雇用の安定性が平均以上にも関わらず、出生率が低水準であることが宇治田原町の特徴です。これには、①職住近接性と②交通利便性の両方と、⑤住宅環境 (結婚・第1子まで) のスコアが低いことから、若年層や若い子育て世帯の流出が原因になっていると推察されます。
- ③男女の雇用均等、⑥住宅環境 (第2子以降)、⑯子どもの頃の経験等が平均値を大きく上回り、その他の評価分野も平均的なものが多いことから、出生率に関わる地域の優位性を生かしつつ定住環境の向上を図ることが重要と考えられます。

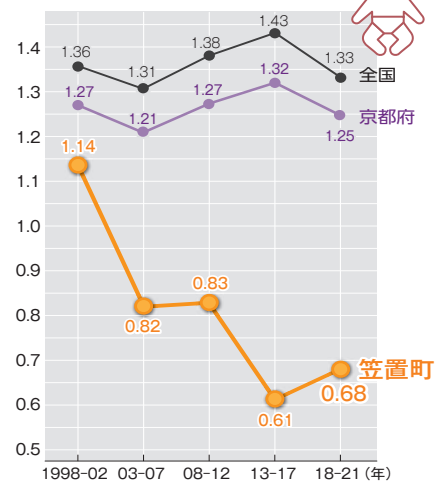
合計特殊出生率
(2018-2021年)



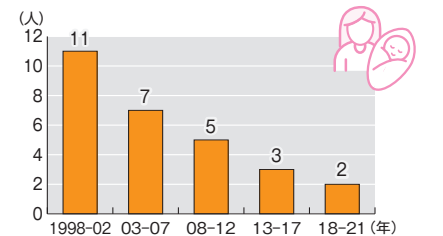
合計特殊出生率
0.68

人口置換水準
2.07との差
(-1.39)

合計特殊出生率の推移



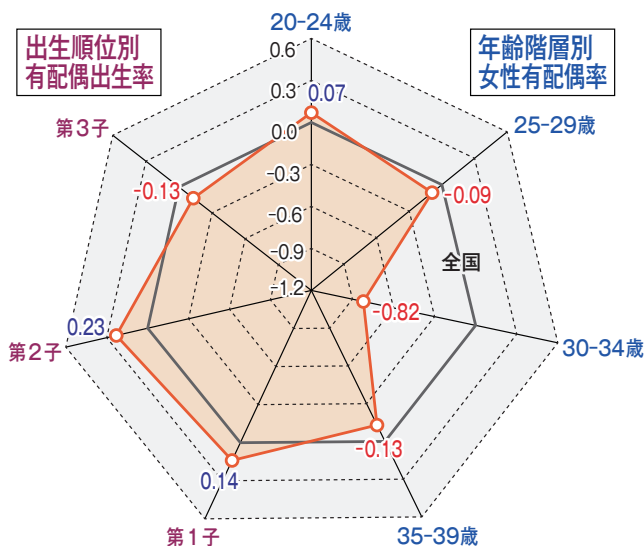
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 市町村では単年の出生率は安定した値が得られないため、今回は2013-17年までは5年間、2018-21年は4年間の出生数をプールしました。しかし、笠置町の出生数は5年間でも数人で推移するようになり、2003-07年以降の合計特殊出生率の値は参考値です。相楽東部などでまとめた分析が必要と考えられます。
- それでも下に示すとおり、15-49歳女性有配偶率が著しく低いことから、府内でも出生率が最も低い地域のひとつと考えられます。

● 実態の見える化

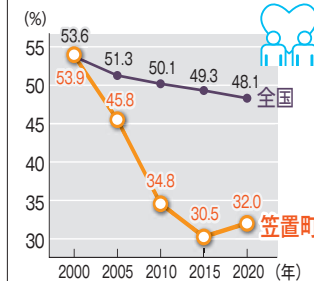
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



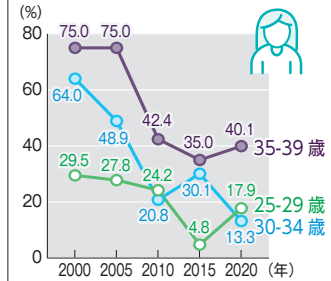
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 笠置町の出生構造の特徴は30-34歳をはじめ、女性有配偶率が著しく低いことです。2020年には15-49歳の女性有配偶率は32%にとどまっています。これは若年女性や子育て世帯の流出によるものと考えられます。
- 笠置町の出生数は5年間のプールでも10人を下回るようになり、出生順位別や母の年齢階層別にすると安定した値が得られないため、掲載を省略しました。

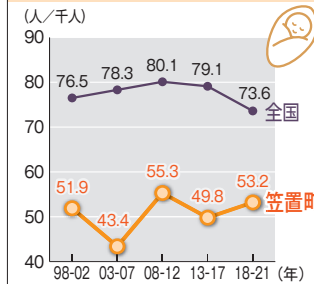
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移



有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移



(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

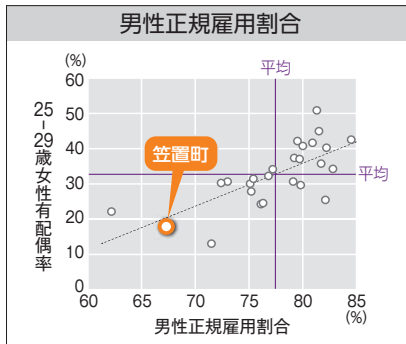
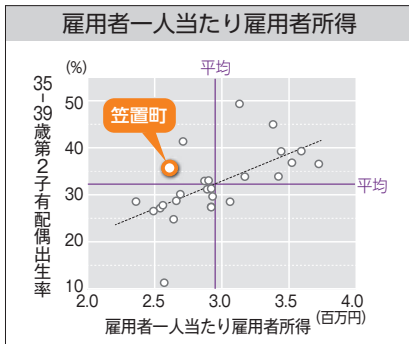
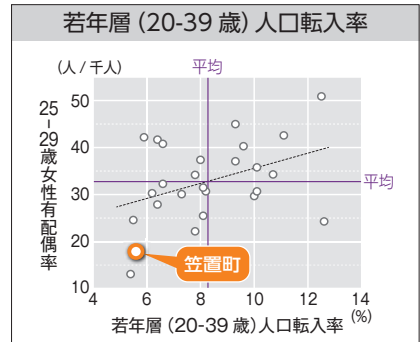
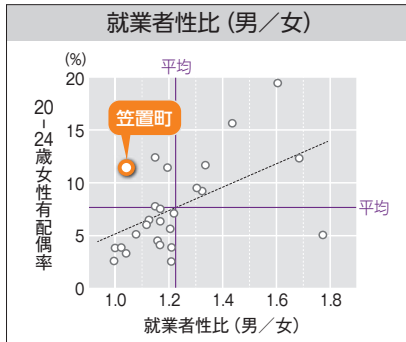
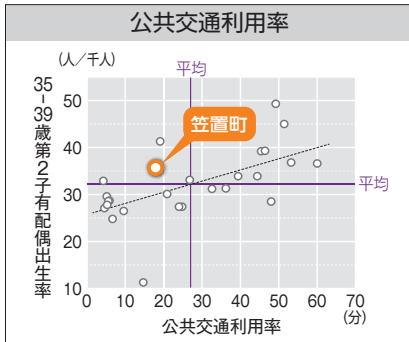
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



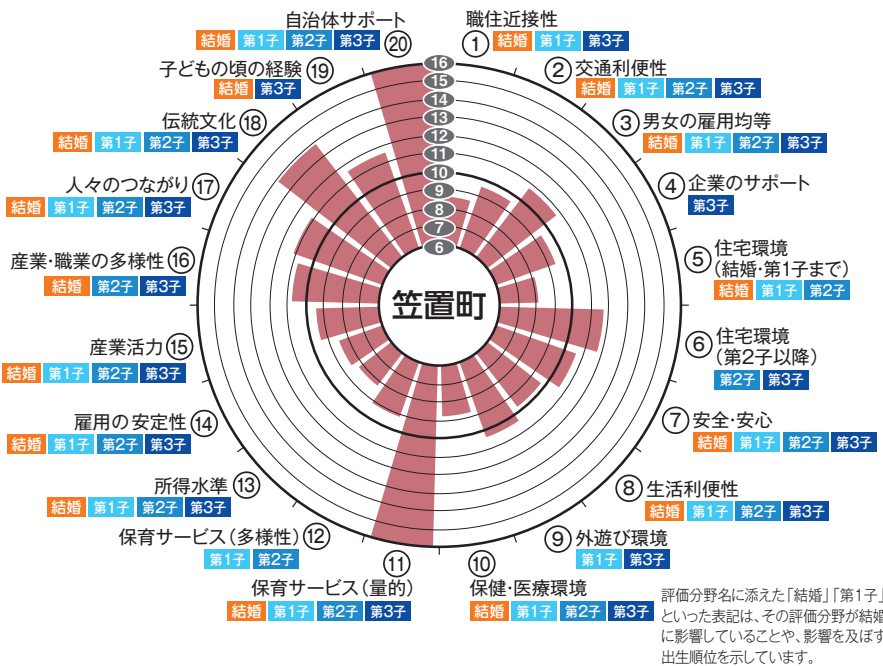
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、若年層 (20-39歳) 人口転入率 (住宅環境 (結婚・第1子まで))、雇用人一人当たり雇業者所得 (所得水準)、男性正規雇用割合 (雇用の安定性) 等が平均値を大きく下回っている様子がわかります。また、笠置町はどのグラフでも全体の分布から外れた位置にあり、笠置町固有の要因が強く働いていることが推察されます。

(注) 括弧の中は評価分野

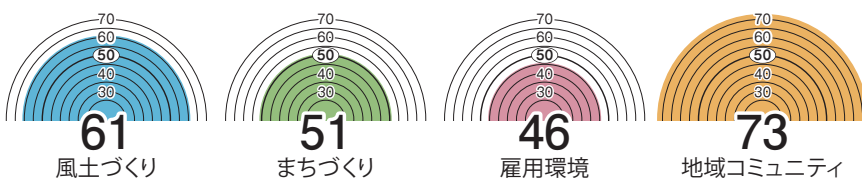
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標 (Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family)

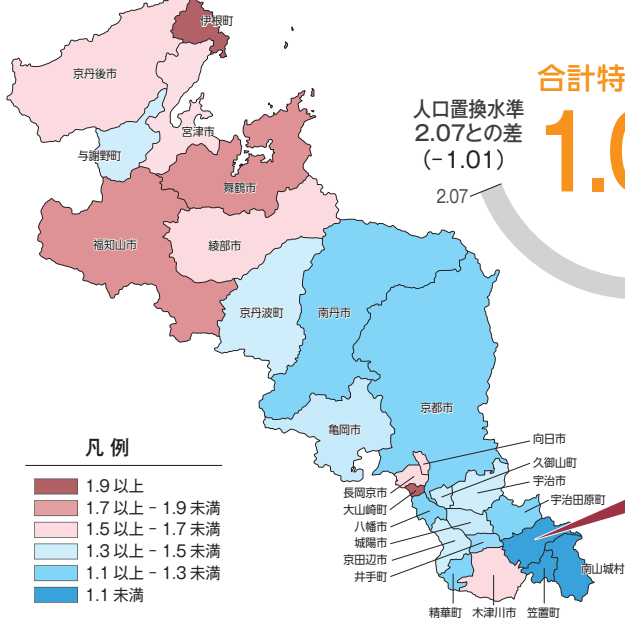
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ⑬所得水準から⑮産業活力まで産業関連の評価分野のスコアが平均を大きく下回ります。これらを背景として、⑤住宅環境 (結婚・第1子まで) のスコアも低く、主に若年層の人口流出によって出生率が低下してきたと考えられます。
- 一方で、⑥住宅環境 (第2以降)、⑦安全・安心、⑨外遊び環境、⑰人々のつながり、⑱伝統文化、⑲子どもの頃の経験のスコアが高く、小規模自治体の特性を活かして、⑩保育サービス (量的)、⑳自治体サポートも高くなっています。若年層の定住が進めば、高い出生率が期待される地域です。

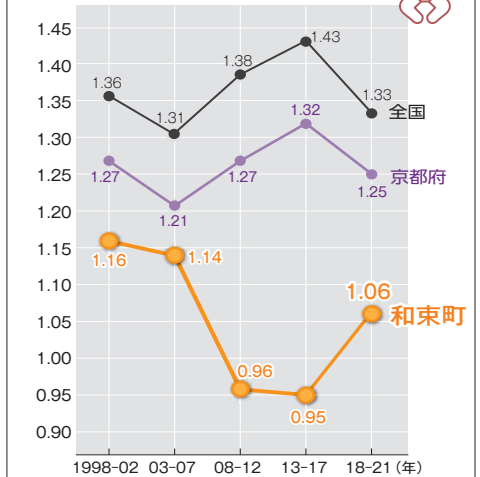
和 東 町

● 出生率の概要

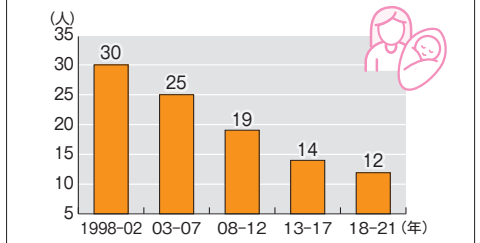
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



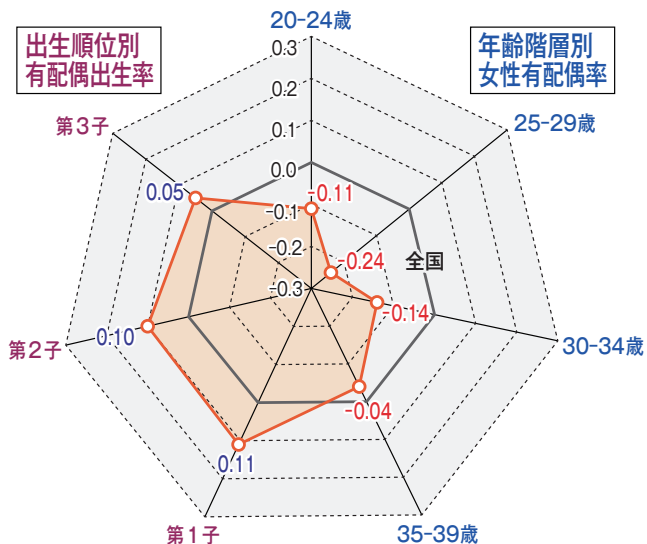
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 市町村では単年の出生率が安定した値が得られないため、今回は2013-17年までは5年間、2018-21年は4年間の出生数をプールしました。しかし、和東町の出生数は5年間でも10数人で推移するようになり、2018-21年の合計特殊出生率の値は参考値です。相楽東部などでまとめた分析が必要と考えられます。
- それでも下に示すとおり、15-49歳女性有配偶率が著しく低いことから、府内でも出生率が最も低い地域のひとつと考えられます。

● 実態の見える化

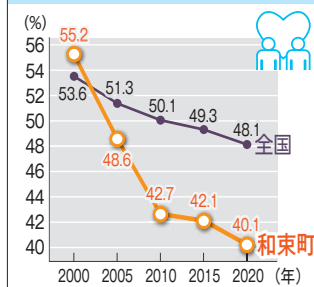
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



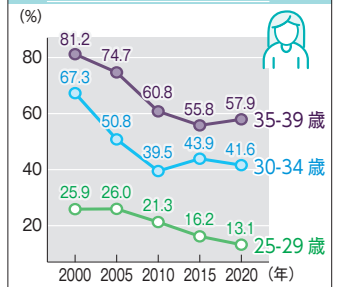
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 和東町の出生構造の特徴は25-29歳をはじめ、女性有配偶率が低いことです。2020年には15-49歳の女性有配偶率は40%に低下しました。これは若年女性や子育て世帯の流出によるものと考えられます。
- 和東町の出生数は5年間のプールでも十数人となっているため、出生順位別や母の年齢階層別の有配偶出生率は参考値であるものの、30歳代の有配偶出生率は上昇傾向にあるとみられます。

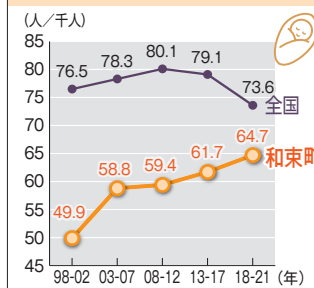
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

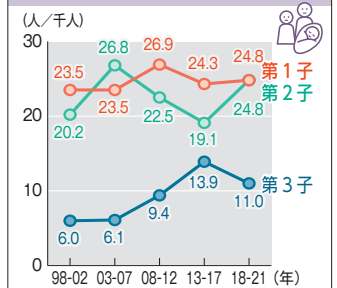


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

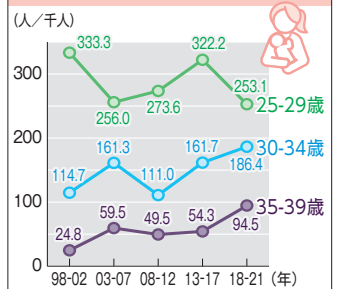


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

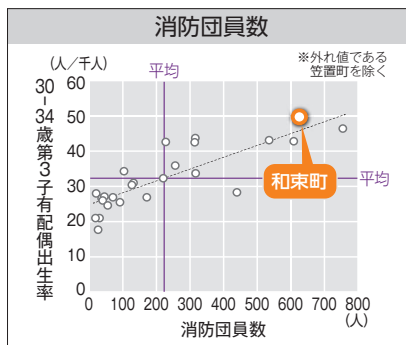
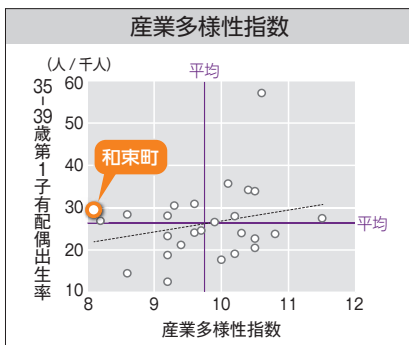
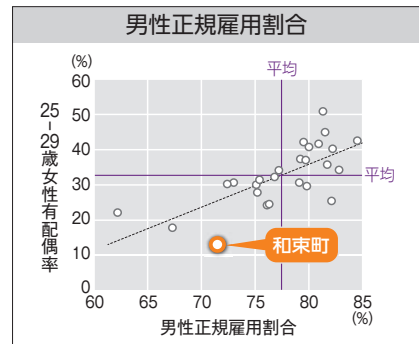
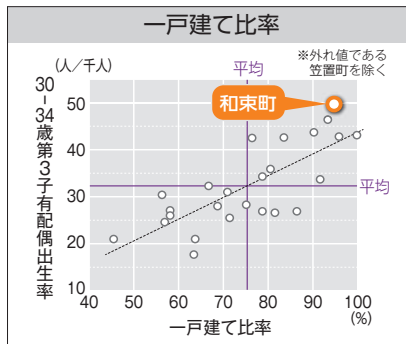
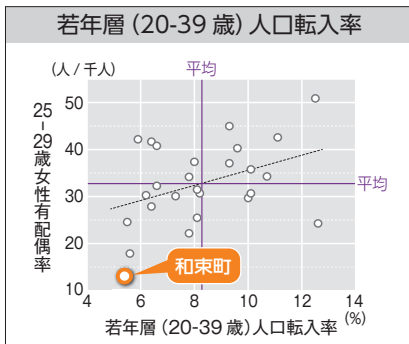
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化

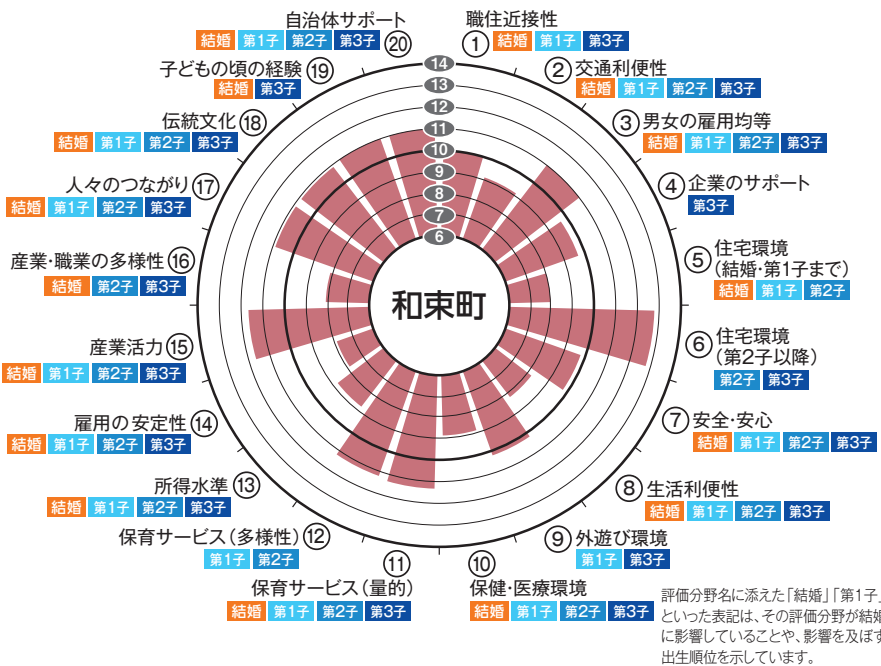


● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、若年層(20-39歳)人口転入率(住宅環境(結婚・第1子まで))、男性正規雇用割合(雇用の安定性)、産業多様性指数(産業・職業の多様性)が平均以下である様子がわかります。一方、一戸建て比率(住宅環境(第2子以降))、消防団員数(人々のつながり)は平均を大きく上回っています。

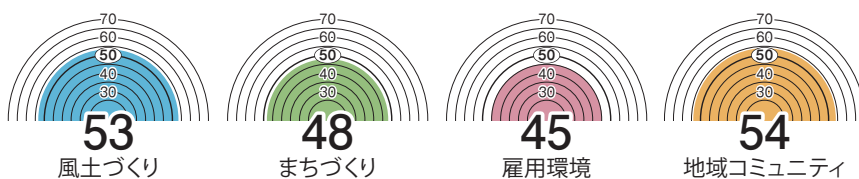
(注) 括弧内は評価分野

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

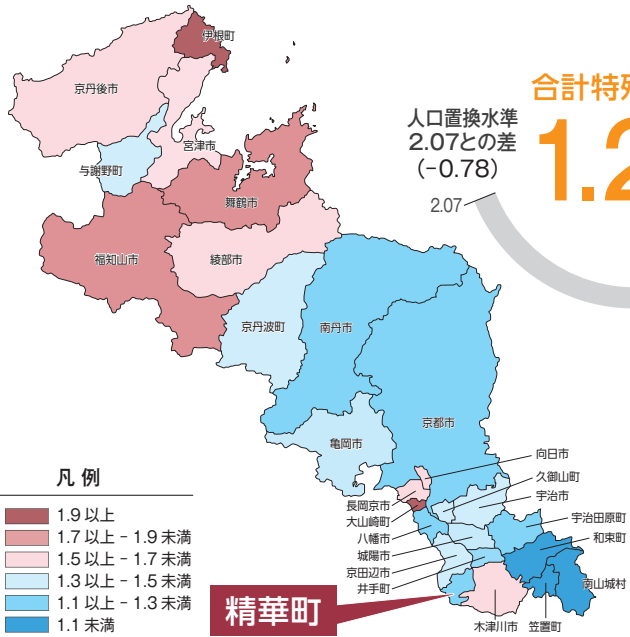
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ⑥住宅環境(第2子以降)のほか、⑰人々のつながりから始まる地域コミュニティ関連の評価分野が平均を大きく上回ります。また、⑩⑫の保育サービス関連も高い値を示しています。
- 半面、⑬所得水準、⑭雇用の安定性、⑮産業・職業の多様性など産業関連の評価分野のスコアが平均を大きく下回ります。また、②交通利便性のスコアが低く、これらを背景として⑤住宅環境(結婚・第1子まで)等が低スコアになっていると考えられます。また、⑧生活利便性と⑩保健・医療環境のスコアが低いことも相乗効果に共通した特徴です。

精華町

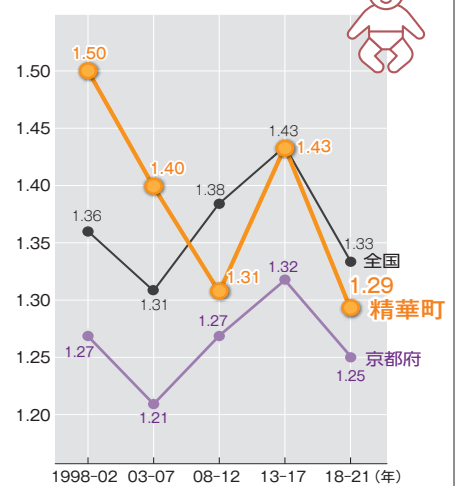
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

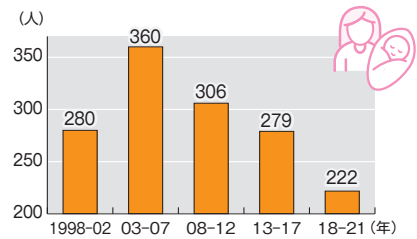


- 2018-21年の精華町の合計特殊出生率は1.29と算出され、全国値を0.04ポイントとわずかに下回ります。一方、人口置換水準との差は-0.78ポイントに及びます。
- 2003-07年から2008-12年に全国、府全体の出生率が上昇する中で、精華町は低下となり、それ以降、全国以下の水準で推移しています。

合計特殊出生率の推移

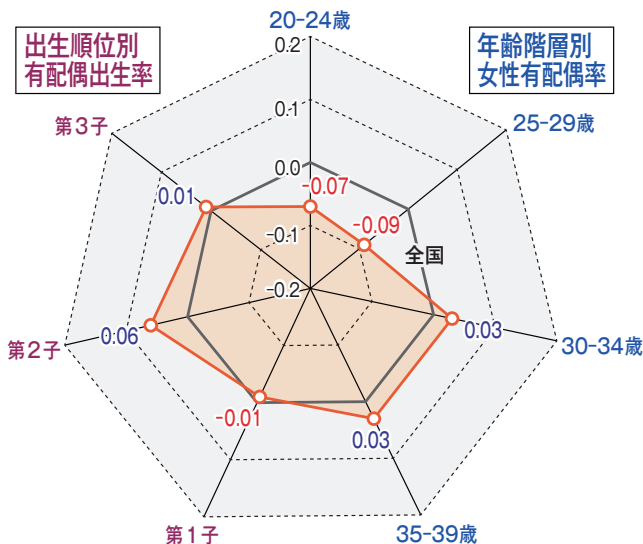


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

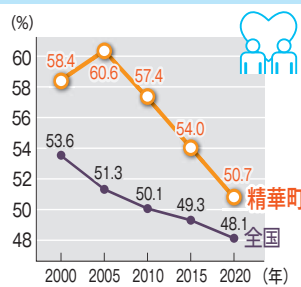
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



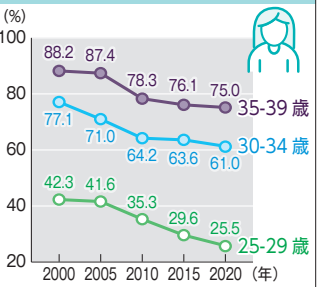
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代の女性有配偶率が全国値を下回り、30歳代は全国を上回ります。30歳代で有配偶率の「追い付き」がみられる地域です。第2子有配偶率は高いものの、第1子が全国値を下回ります。
- 30歳代の有配偶出生率は2013-17年まで上昇傾向でしたが、女性有配偶率の低下が大きく、第1子有配偶出生率が低いことから、今後の出生率低下が懸念されます。

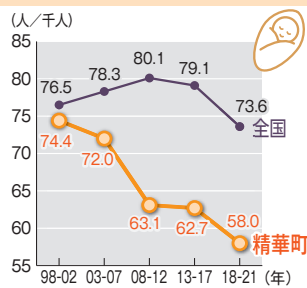
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

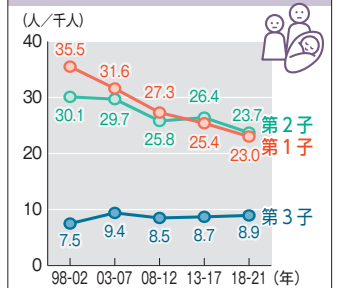


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

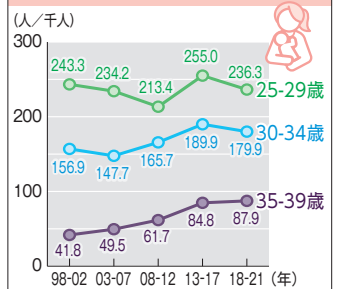


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

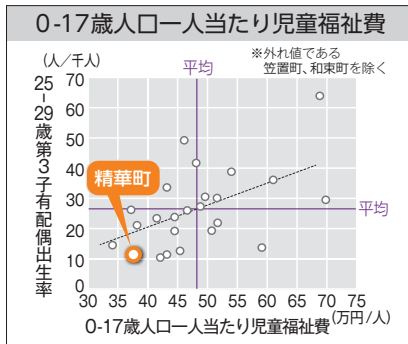
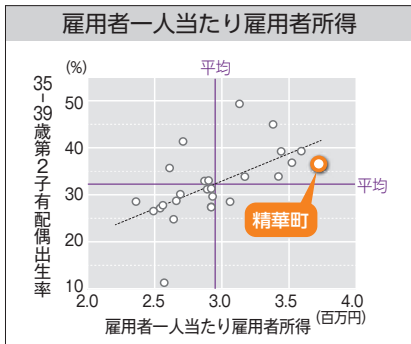
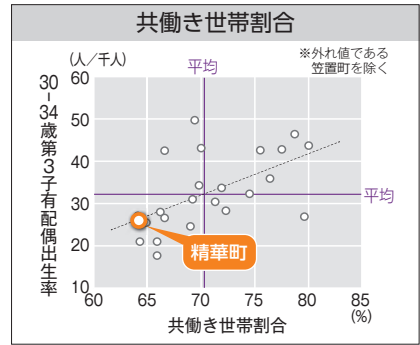
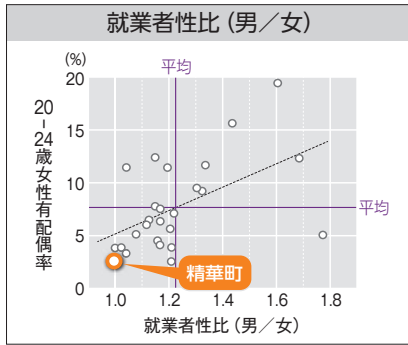
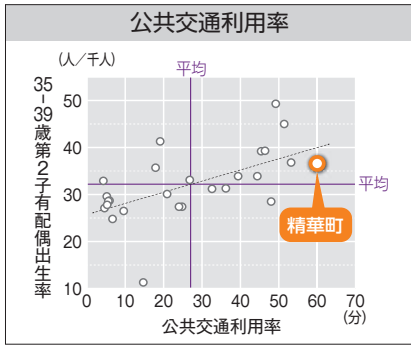
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



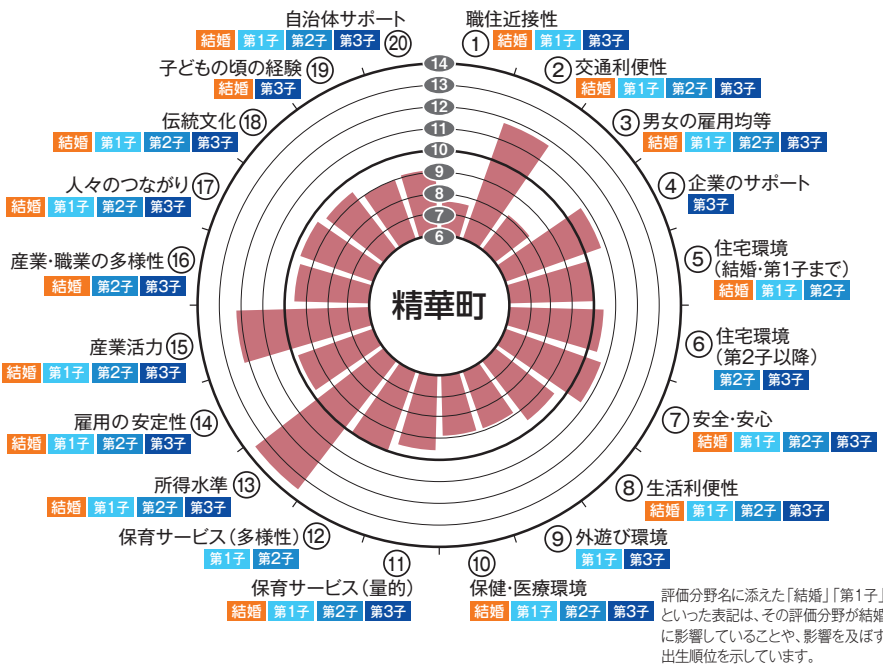
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、就業者性比(男女の雇用均等)、共働き世帯割合(同)、0-17歳人口一人当たり児童福祉費(自治体サポート)が平均を下回ります。一方で、公共交通利用率(交通利便性)と雇業者一人当たり雇業者所得(所得水準)が府内市町村の中で際立って高くなっています。

(注) 括弧の中は評価分野

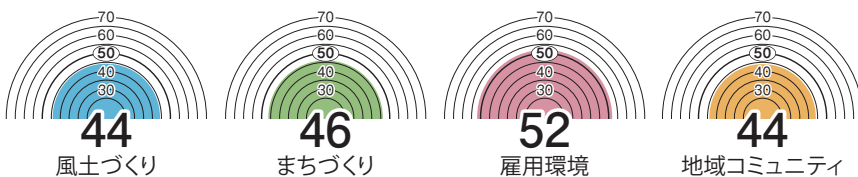
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標 (Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family)

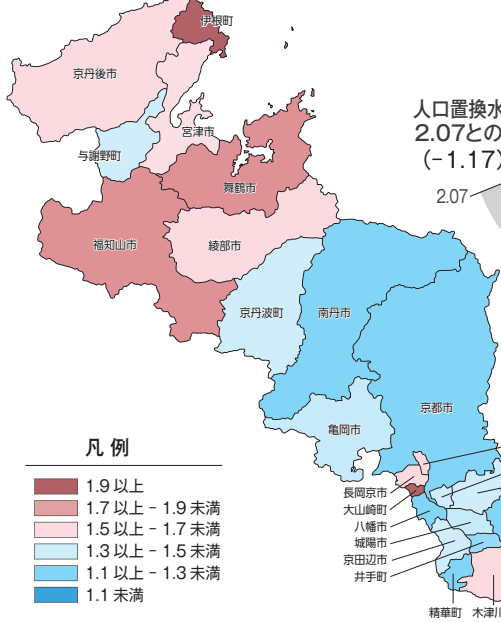
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ①職住近接性が低く、②交通利便性が際立って高いこと、また、⑬所得水準の著しい高さが精華町の特徴です。住宅環境のうち、⑤が平均的、⑥が平均を上回るほか、⑦安全・安心のスコアの高さが第2子有配偶出生率等にプラスの影響を及ぼしているとみられます。
- 半面、⑧生活利便性、⑨外遊び環境、⑩保健・医療環境、⑪保育サービス(量的)といったまちづくりに関わる評価分野と、⑰人々のつながりから始まる地域コミュニティ関連の評価分野のスコアが平均を下回り、出生率にマイナスに影響していると考えられます。

南山城村

● 出生率の概要

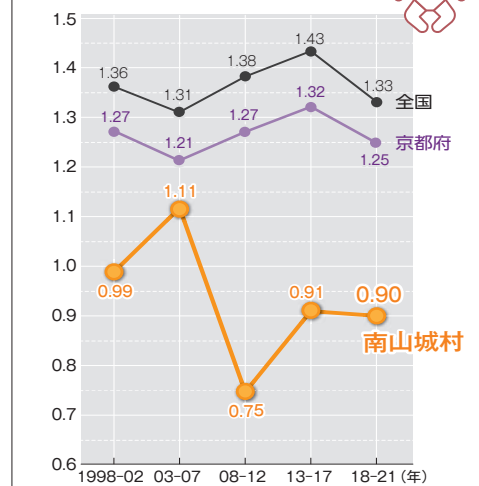
合計特殊出生率
(2018-2021年)



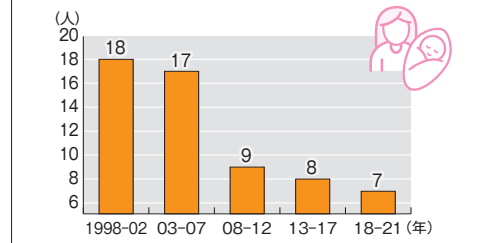
合計特殊出生率
0.90

人口置換水準
2.07との差
(-1.17)

合計特殊出生率の推移



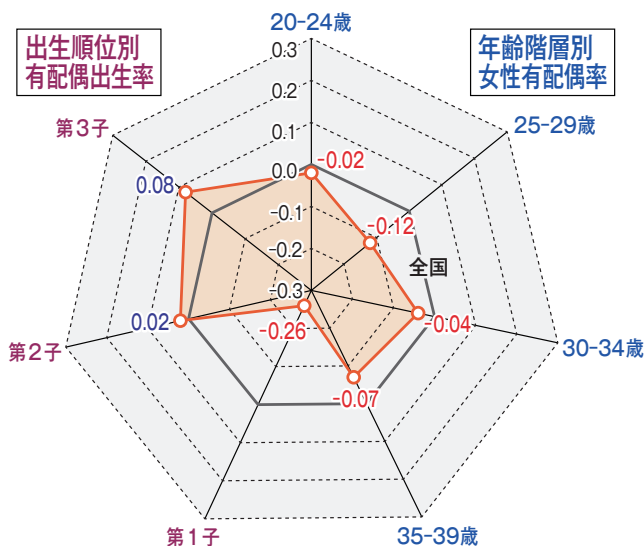
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 市町村では単年の出生率が安定した値が得られないため、今回は2013-17年までは5年間、2018-21年は4年間の出生数をプールしました。しかし、南山城村の出生数は5年間でも10人未満で推移するようになり、2008-12年以降の合計特殊出生率の値は参考値です。相楽東部などでまとめた分析が必要と考えられます。
- それでも下に示すとおり、15-49歳女性有配偶率が著しく低いことから、府内でも出生率が最も低い地域のひとつと考えられます。

● 実態の見える化

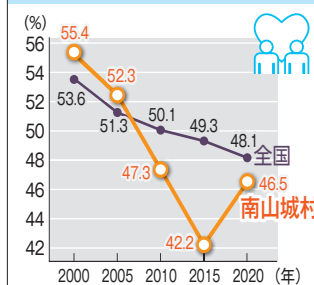
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



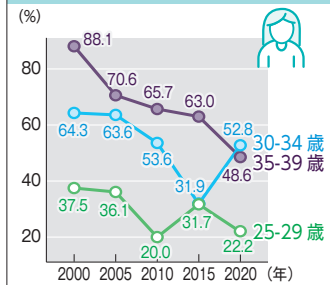
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 南山城村の出生構造の特徴は25-29歳をはじめ、女性有配偶率が低いことです。一方、15-49歳の女性有配偶率は2020年には46.5%と5年前より上昇しました。
- 南山城村の出生数は5年間のプールでも10人を下回るようになり、出生順位別や母の年齢階層別になると安定した値が得られないため、掲載を省略しました。

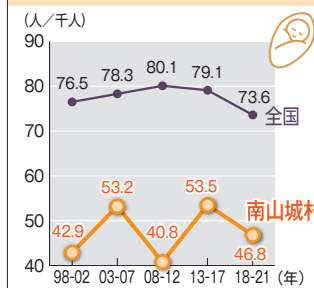
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移



有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移



(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

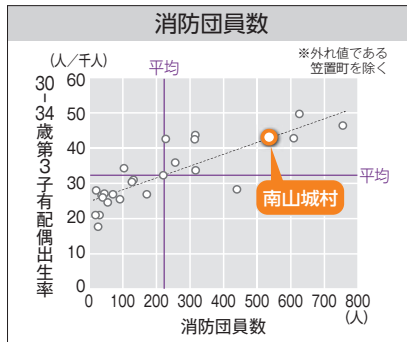
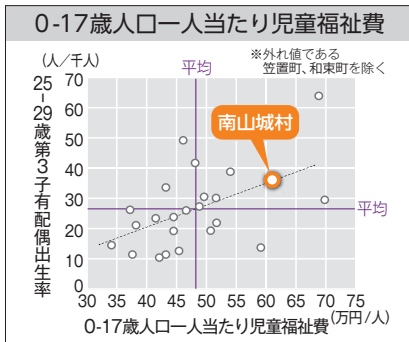
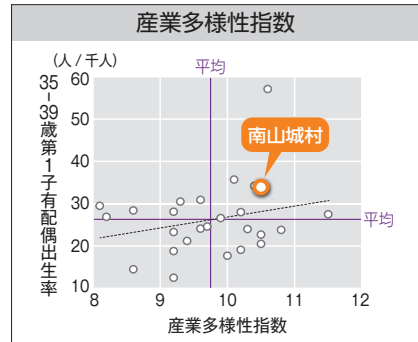
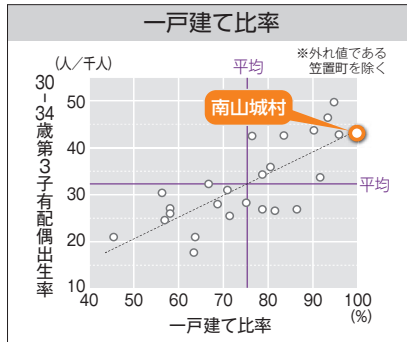
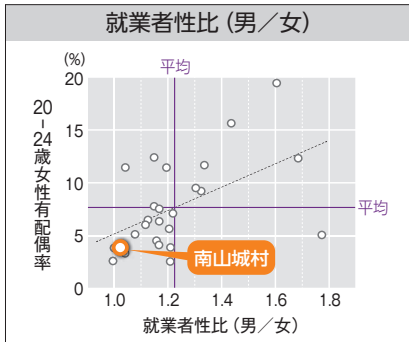
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移

(掲載省略)

母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移

(掲載省略)

● 要因の見える化



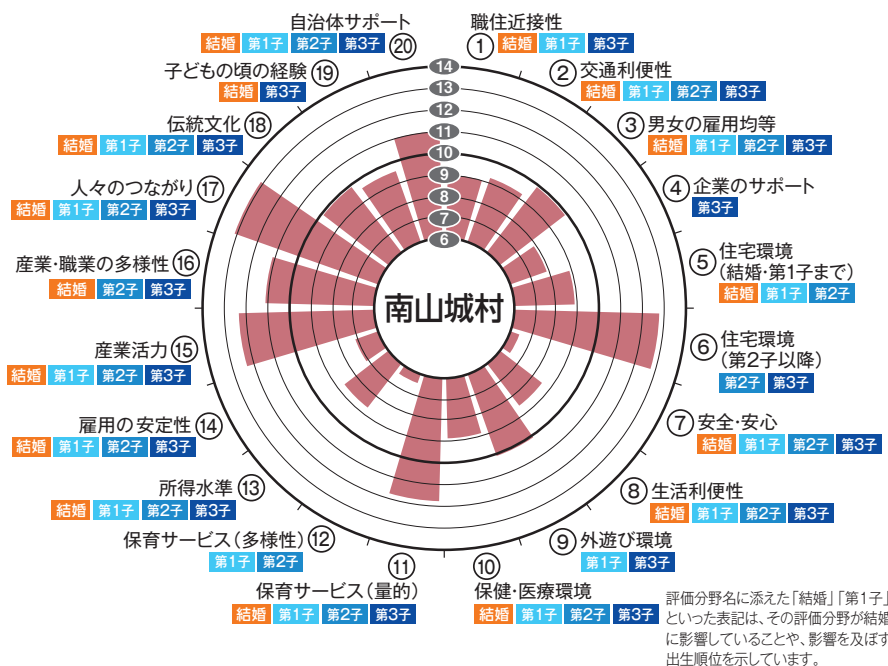
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、一戸建て比率(住宅環境(第2子以降))、産業多様性指数(産業・職業の多様性)、0-17歳人口一人当たり児童福祉費(自治体サポート)、消防団員数(人々のつながり)が平均値を上回り、就業性比(男/女)(男女の雇用均等)が平均以下である様子がわかります。

(注) 括弧の中は評価分野

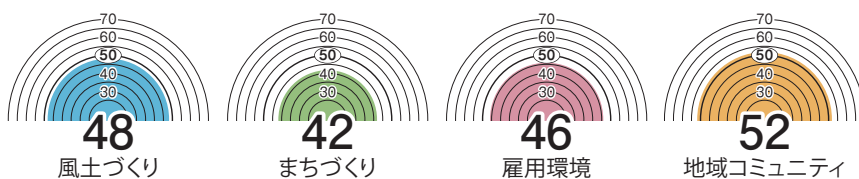
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

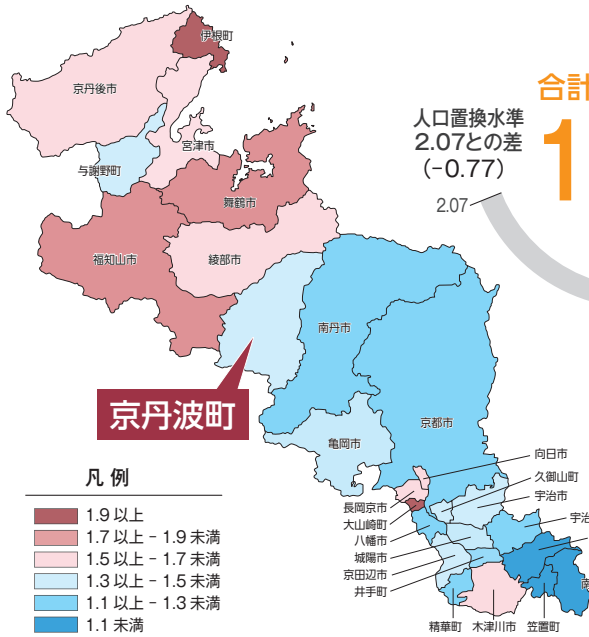
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- 南山城村は、府内でも子育て環境の優位点と課題がはっきり分かれている地域の一つです。まず、⑥住宅環境(第2子以降)、⑪保育サービス(量的)、⑮産業活力、⑰人々のつながりが際立って高いスコアになっています。
- その反面、⑤住宅環境(結婚・第1子まで)、⑩保健・医療環境、⑬所得水準、⑭雇用の安定性等が平均を大きく下回ります。加えて、①職住近接性と②交通利便性の両方が低く、このことを課題と捉えるか、前提と捉えるかによっても子育て環境向上の方向が変わってくと考えられます。

京丹波町

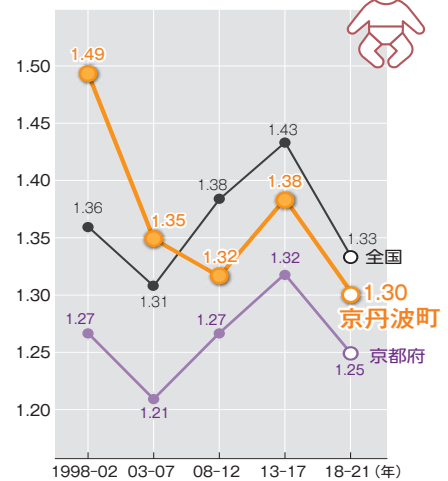
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

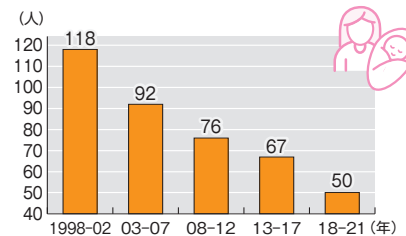


- 2018-21年の京丹波町の合計特殊出生率は1.30と算出され、全国値を0.03ポイントとわずかに下回ります。人口置換水準との差は-0.77ポイントに及びます。
- 1998-2002年は全国を0.13ポイントを上回っていましたが、その後出生率の低下が続き、2008-12年以降は全国を下回る水準で推移しています。

合計特殊出生率の推移

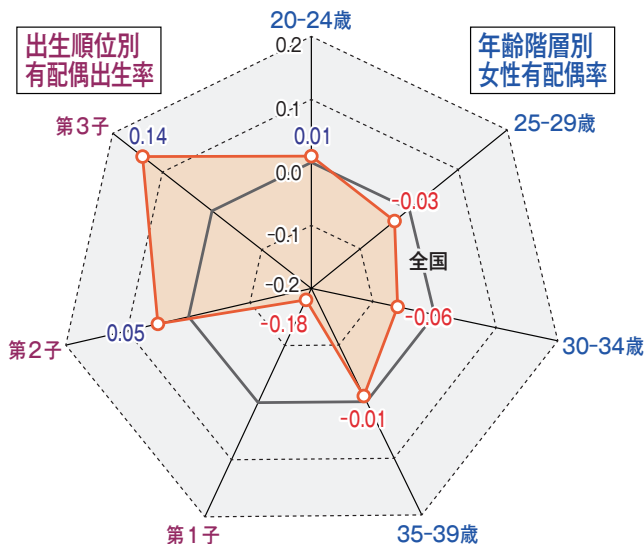


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

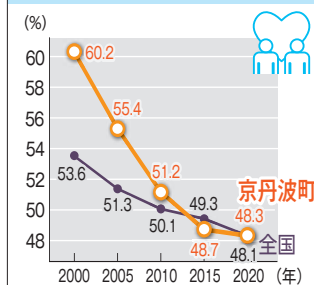
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



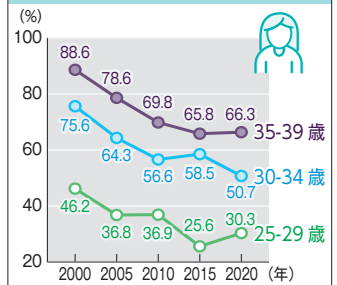
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代後半から30歳代の女性有配偶率が全国値を下回ります。有配偶出生率は第2子・第3子が高くなっていますが、第1子が低く全国との差も大きくなっています。
- 2018-21年は有配偶出生率が低下しました。女性有配偶率の低下が著しいことや、第1子有配偶出生率が低いことから、さらなる出生率低下が懸念されます。

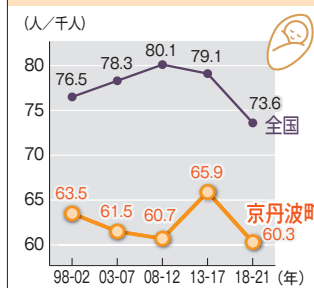
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

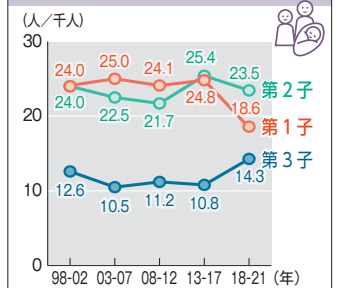


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

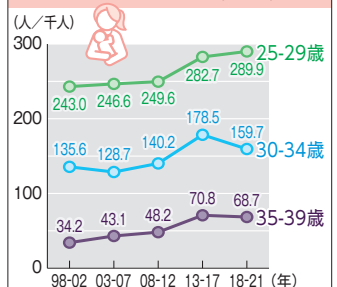


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

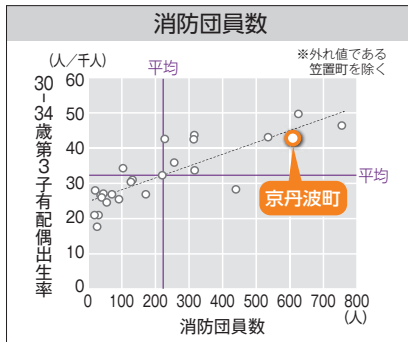
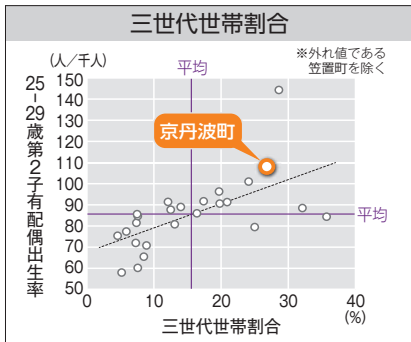
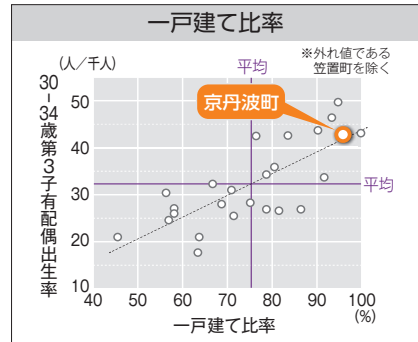
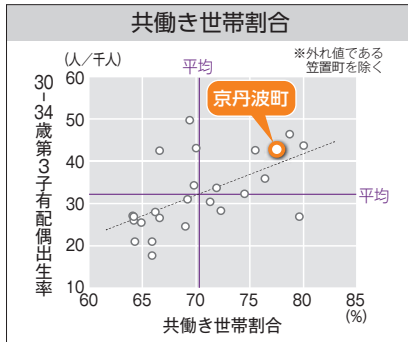
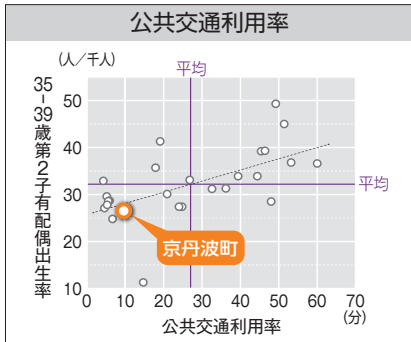
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



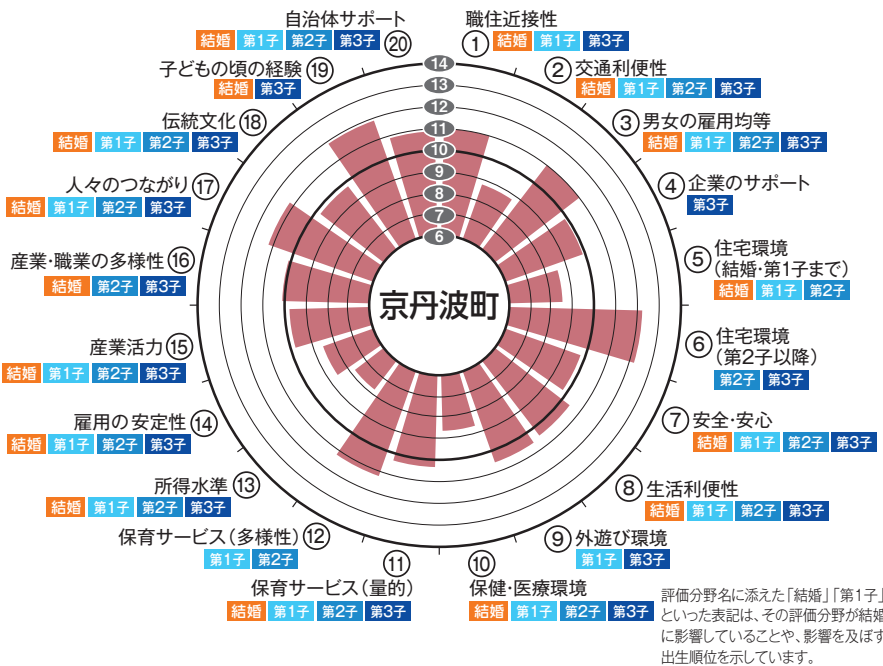
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、一戸建て比率（住宅環境（第2子以降）、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）等が平均を超えています。一方で、公共交通利用率（交通利便性）が平均値を下回っている様子が見えます。

(注) 括弧の中は評価分野

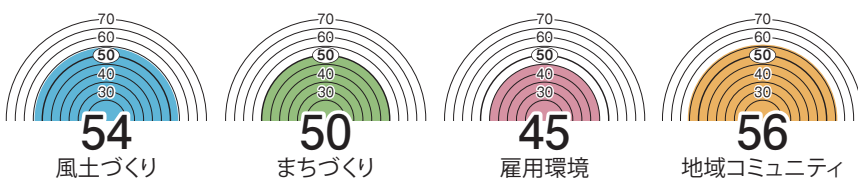
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)

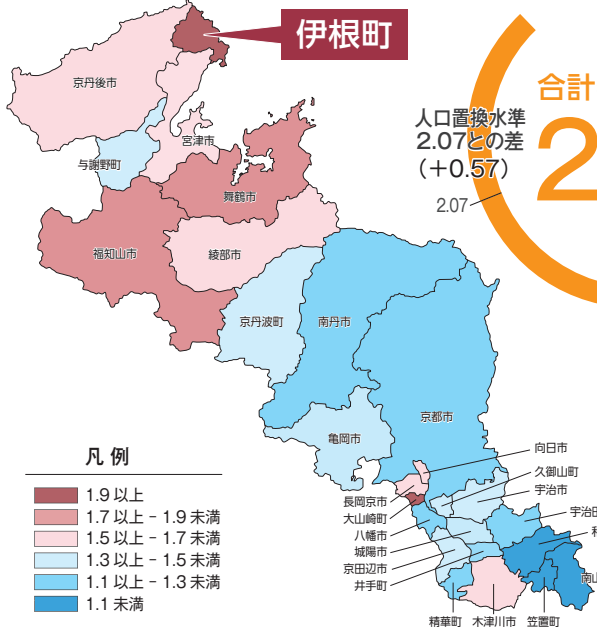


京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

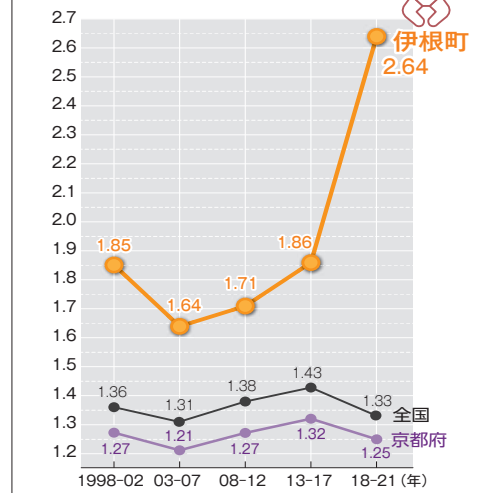
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ①職住近接性、③男女の雇用均等、⑨外遊び環境、⑬産業・職業の多様性が平均を上回り、これらは出生率が高い中丹・丹後にもみられる特徴です。加えて、⑥住宅環境（第2子以降）、⑱人々のつながり、⑲子どもの頃の経験が高いなど、地域独自の優位点もみられます。
- 半面、影響力が大きい⑤住宅環境（結婚・第1子まで）と⑬所得水準のスコアの低さから、若年層や若い子育て世帯の流出が推察され、出生率に対してマイナスに働いていると考えられます。

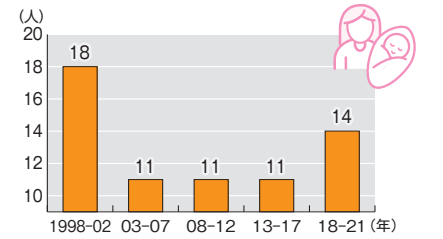
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



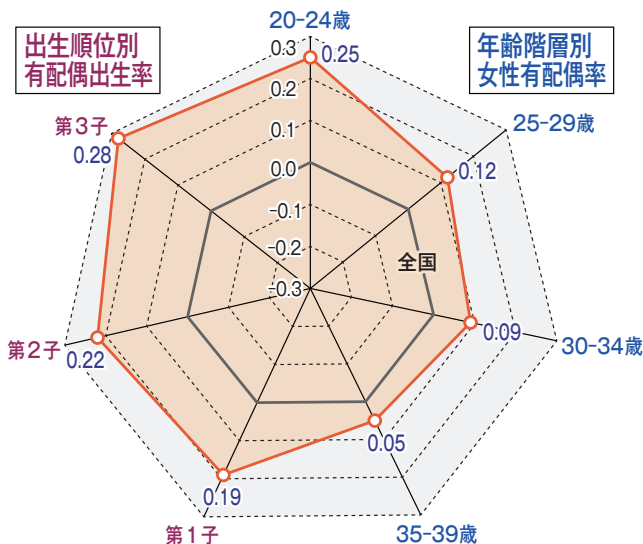
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 市町村では単年の出生率は安定した値が得られないため、今回は2013-17年までは5年間、2018-21年は4年間の出生数をプールしました。しかし、伊根町の出生数は5年間でも10人程度で推移するようになり、2003-07年以降の合計特殊出生率の値は参考値です。
- それでも下に示すとおり、第1子から第3子までの有配偶出生率の高さから、府内でも出生率が最も高い地域の一つと考えられます。

● 実態の見える化

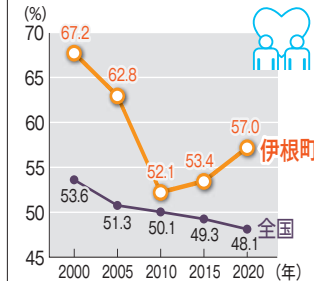
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



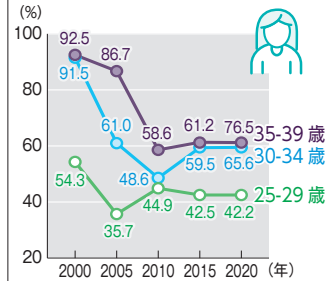
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代と30歳代の女性有配偶率が全国値を上回ります。また、有配偶出生率が、第1子から第3子まで0.1ポイント以上高くなっているのは府内では伊根町だけです。
- 女性有配偶率は2000年から大きく低下しましたが、府内では高い水準を維持しています。また、30歳代の有配偶出生率が上昇しており、伊根町の高い出生率に寄与しているとみられます。

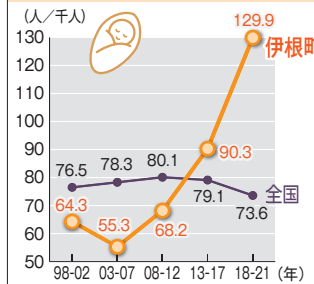
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

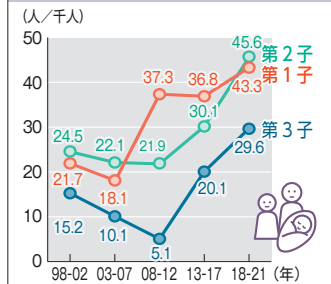


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

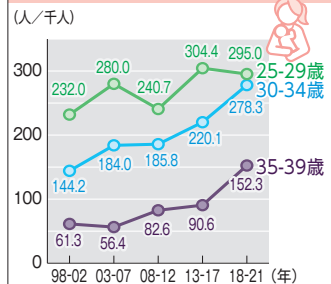


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

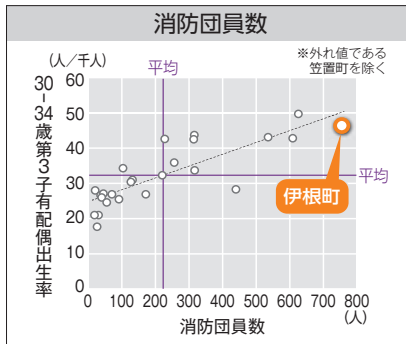
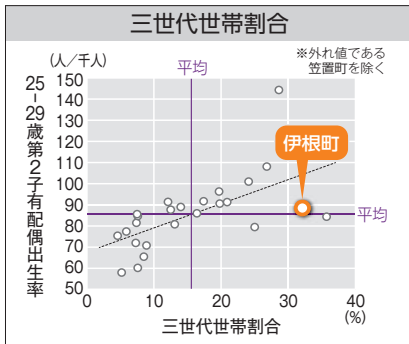
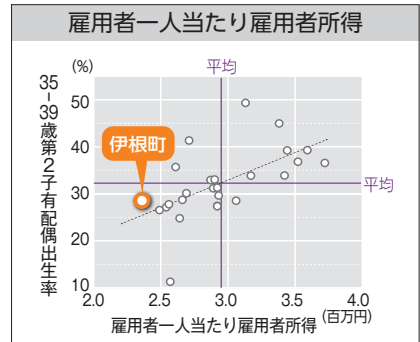
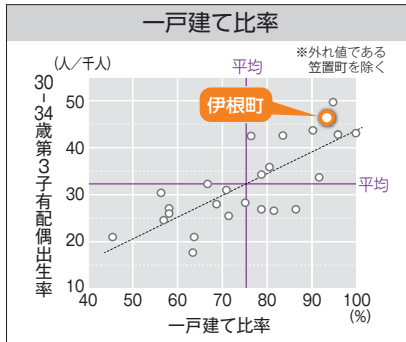
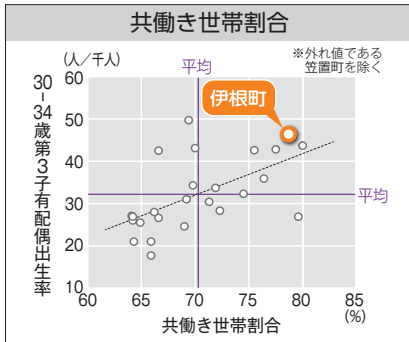
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



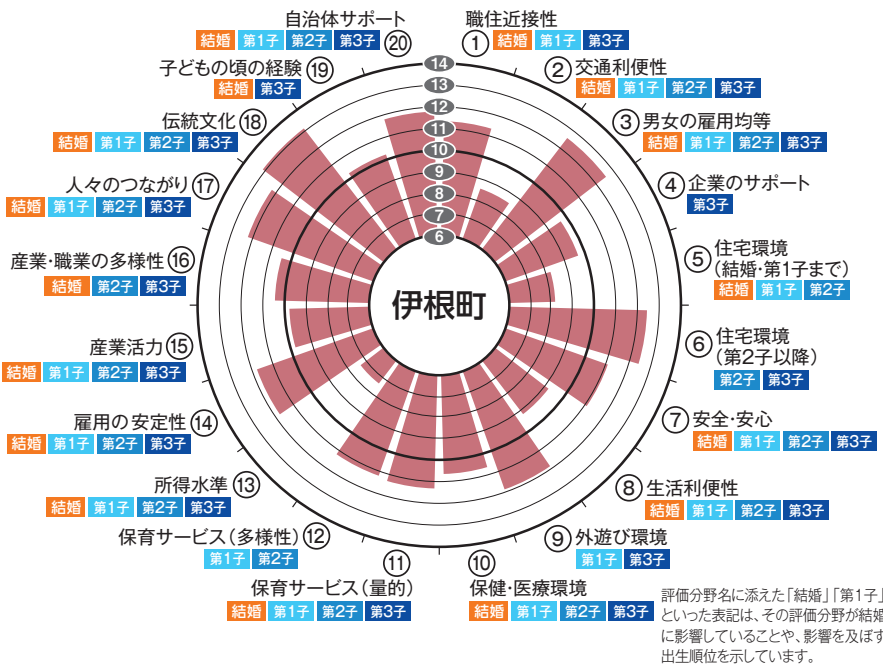
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、一戸建て比率（住宅環境（第2子以降））、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）等は平均値を上回りますが、雇用者一人当たり雇用者所得（所得水準）が平均値を下回っている様子が見えます。

(注) 括弧の中は評価分野

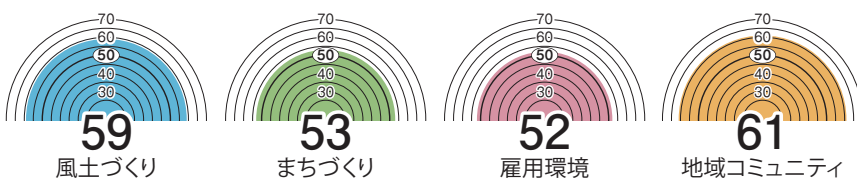
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

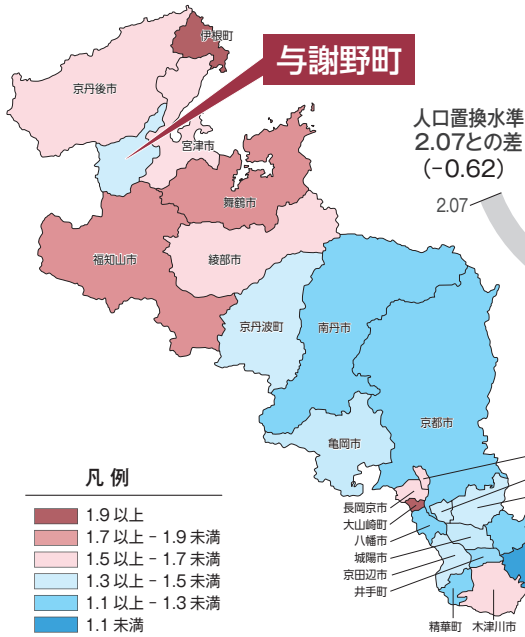
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- 伊根町は、府内でも子育て環境の優位点と課題がはっきり分かれている地域の一つです。まず、③男女の雇用均等、⑥住宅環境（第2子以降）、⑨外遊び環境、⑪と⑫の保育サービス、⑭雇用の安定性等が際立って高いスコアです。加えて、⑰人々のつながりからの地域コミュニティ関連の評価分野がかなり高い値を示しており、有配偶出生率にプラスに影響していると考えられます。
- 一方で、⑧生活利便性、⑬所得水準、⑮産業活力等のスコアが平均を大きく下回っており、出生率は高いながらも、子育て環境に課題設定が可能になっています。

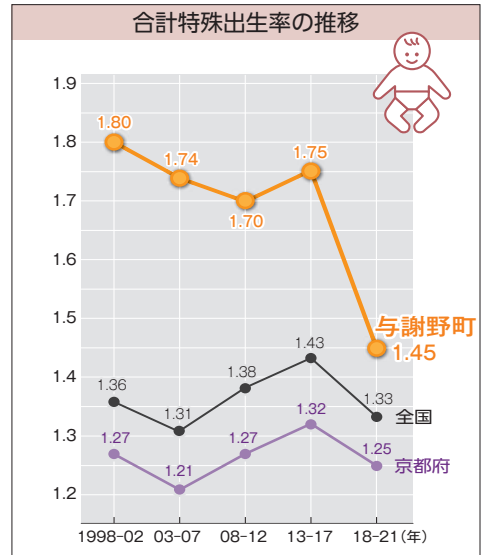
与謝野町

● 出生率の概要

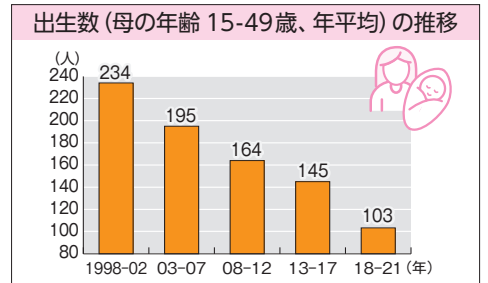
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



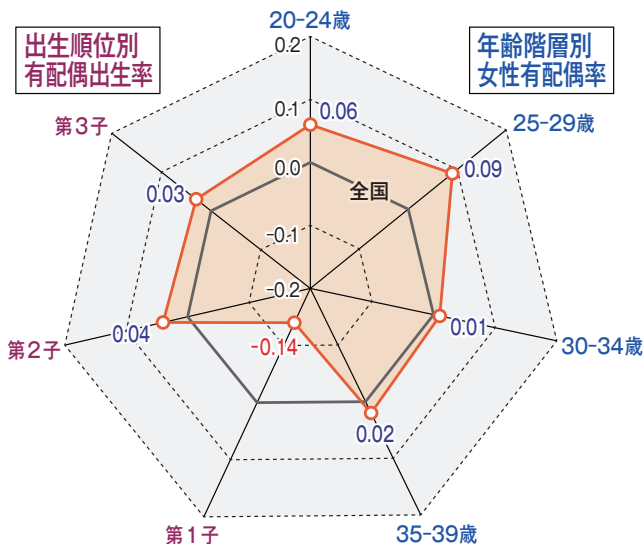
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



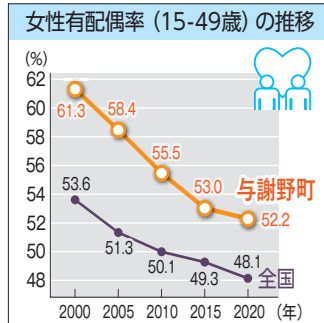
- 2018-21年の与謝野町の合計特殊出生率は1.45と算出され、全国値を0.12ポイント上回ります。人口置換水準との差は-0.62ポイントに及びます。
- 2008-12年から2013-17年は、全国同様、出生率は上昇しましたが、1998-02年から低下傾向が続いているとみられます。

● 実態の見える化

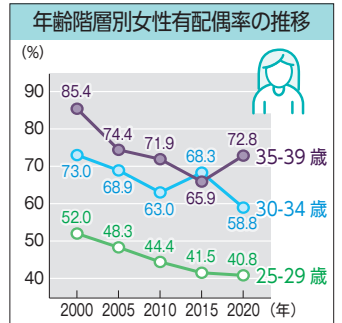
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



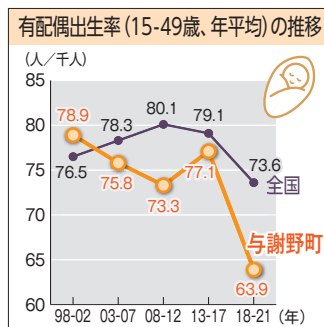
女性有配偶率(15-49歳)の推移



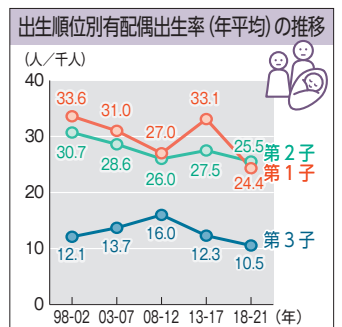
年齢階層別女性有配偶率の推移



有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

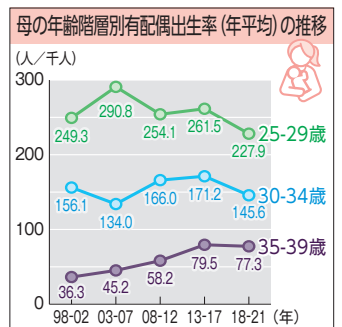


出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

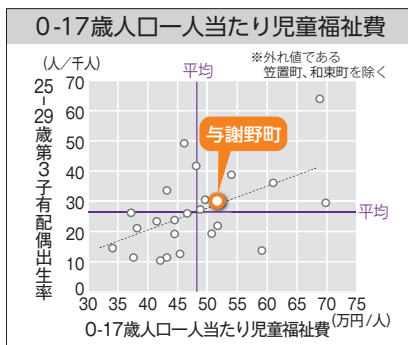
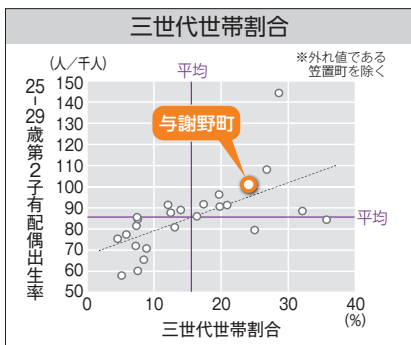
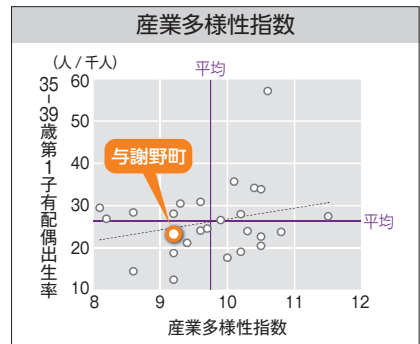
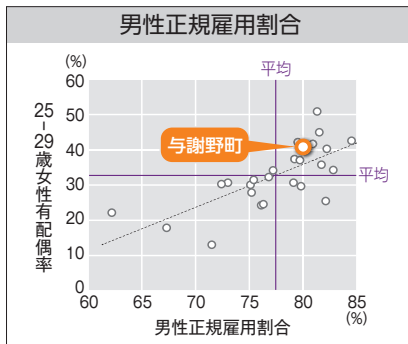
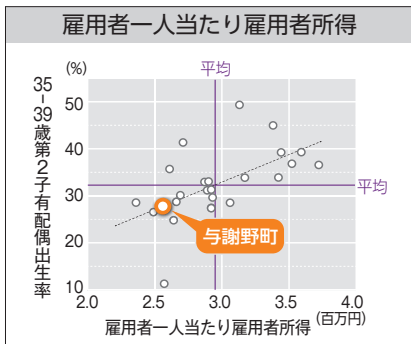
母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代と30歳代の女性有配偶率が全国値を大きく上回ります。また、有配偶出生率は第2子・第3子が高くなっていますが、第1子が低く全国との差も大きくなっています。
- 女性有配偶率の低下が著しいこと、また、有配偶出生率も低下傾向で推移し、第1子有配偶出生率が低いことから、今後の出生率低下が懸念されます。

● 要因の見える化



● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、男性正規雇用割合（雇用の安定性）、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）、0-17歳人口一人当たり児童福祉費（自治体サポート）は平均以上です。一方、雇用者一人当たり雇用者所得（所得水準）、産業多様性指数（産業・職業の多様性）が平均値を下回っている様子がわかります。

(注) 括弧の中は評価分野

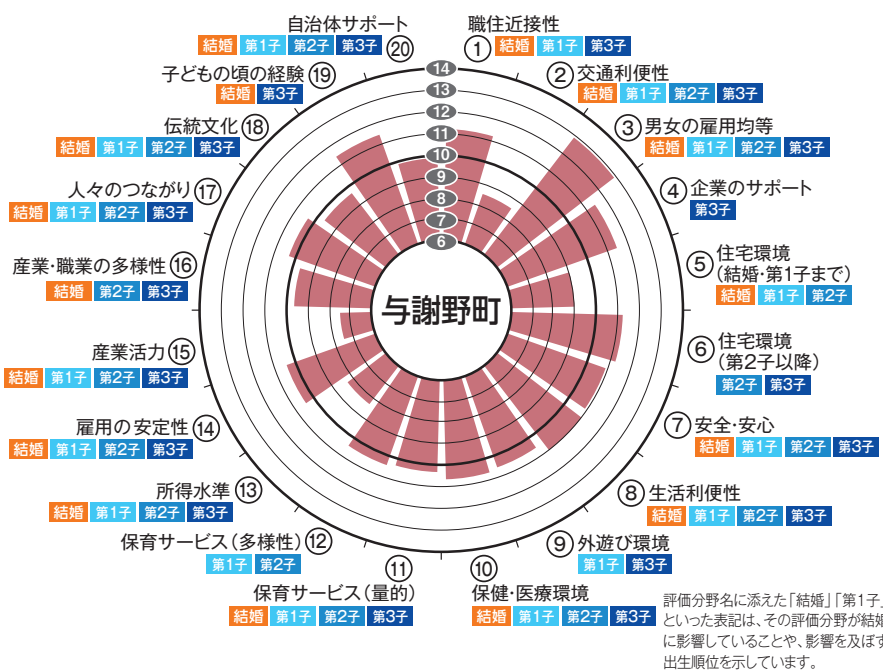
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

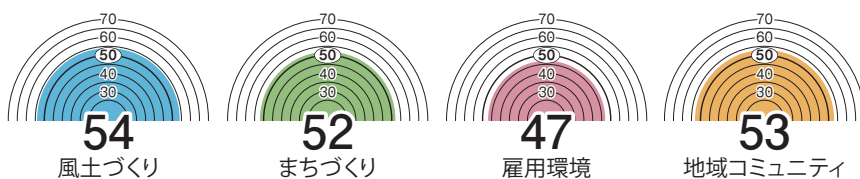
結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)

京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



- ①職住近接性、③男女の雇用均等、⑥住宅環境（第2子以降）、⑨外遊び環境等のスコアが高く、出生率が高い中丹・丹後に共通する特徴が表れています。また、⑭雇用の安定性、⑯子どもの頃の経験等も高い値を示しており、出生率にプラスに影響していると考えられます。
- 半面、⑤住宅環境（結婚・第1子まで）のスコアが低く、加えて、⑬所得水準、⑮産業活力等の⑭を除く産業関連の評価分野が平均を大きく下回っています。これらが、出生率にマイナスの影響を及ぼしていると考えられます。

